

平成28年度  
社会福祉法人 高知小鳩会事業報告書

1 役員構成

1) 理事

理事長 ・ 福井 昭  
 常務理事 ・ 南 守  
 理事 ・ 大倉 三洋 ・ 三谷 隆彦 ・ 矢野 泰彦 ・ 友永 義信

2) 監事 ・ 山下 洋子 ・ 神崎 正志

3) 評議委員 ・ 南 守 ・ 大倉 三洋 ・ 三谷 隆彦 ・ 矢野 泰彦  
 ・ 友永 義信 ・ 山本 純史 ・ 福留 章夫 ・ 前田 正稔  
 ・ 太田 敏敬 ・ 門谷 良久 ・ 南 幸子 ・ 岩城 雅人  
 ・ 井上 朋子

2 平成28年度事業実績等

1) 高知県委託事業「障害児等療育支援事業」 \* 延べ人数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
外来	4	4	3	4	4	6	4	4	2	5	2	1	43
巡回	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	4	4	3	4	4	6	4	4	2	5	2	1	43

平成28年度 受託料60,000円

2) その他支援事業 \* 延べ人数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
短期入所事業(指定事業)	75	83	83	75	79	86	89	69	73	68	65	72	917
在宅支援事業(法人単独) * 宿泊, 日中ショート等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

3 その他

平成26年12月より全ての労働者に対して義務化された「ストレスチェック」を実施。  
 又、毎月、安全衛生委員会を開催し、より良い職場環境の構築に努めた。

4 平成28年度決算 ※ 収支決算書参照

# 平成28年度あじさい園事業報告書

## 1 事業概要

4月より新規職員、男性3名、女性1名を採用。男性棟の職員増員に伴い、今まで本館別館の住み分けが曖昧になっていた部分を見直し、職員配置や体制づくりをすすめた。9月からは日中活動以外の生活の場をしっかりと分けることができるようになり、利用者の安定した生活に繋がっている。一方、女性棟は必要な職員数の確保が困難で、未だ利用者全員が本館を利用している。

利用者の状況については、重度、高齢化が着実にすすんでおり、それに対応すべく職員の知識や支援技術の習得とスキルアップが求められている。今年度は定例研修(OJT)の充実はもちろんのこと、必要に応じて外部研修への参加も積極的にすすめた。更に、昨年度開催した埼玉大学の宗澤先生の研修を継続し、虐待に対する幹部職員として意識の向上を目指した。又、7月26日に相模原市の障害者支援施設津久井やまゆり園の殺傷事件を受けて、我々の仕事や役割を見直す機会にすると共に、合わせて防犯対策を強化するための設備の拡充を図った。

これからの課題となる、認知症ケアの技法として用いられている「ユマニチュード」を、法人職員の支援のベースとして確立していく為のスタートラインとして、12月に全職員対象に統括研修を行なった。今後、幹部職員が内容を十分に咀嚼した上で現場職員への伝達研修ができるよう準備をすすめていくこととなる。

## 2 法人サービス理念

1) 「できるだけ普通に、可能な限り特別に」をサービスの基本とします。

施設を地域の一単位(家庭)と考え、一般社会と比較されるような特別な生活環境ではない、いわゆる「普通」感覚をもちながら、個別のニーズには可能な限り「特別」で手厚いサービス提供をすることを目指した。

2) 利用者に心地よい援助技術の習得に努め、心は常にアマチュアであろうとします。

職員は介護等の自主研修等をとおして介助、支援技術の習得に努めた。又、専門性を高めると共に、アマチュアであった時のような本来の「福祉の精神」が失われることのないよう職員教育を行った。

## 3 基本的運営理念

1) 家庭の代替機能、補完機能を第一義としない。

保護者と施設がそれぞれの役割を果たせるような関係づくりをし、利用者が家庭から遊離しないような取り組みを継続して行った。

2) 幅広い福祉システム作りの核としての機能と目的を持つ。

施設の所有するサービスの有効活用を目指し、短期入所、相談支援事業と連携し在宅知的障害者の支援にも努めた。

3) 託し合える関係を保持する保護者たちが、施設と両輪となり「親の視点」で運営する。

利用者が何を望んでいるのかを把握するために、「親の視点」をとおして保護者と施設が連携を保ちながらの利用者サービスに努めた。

## 4 運営方針

1) ノーマライゼーションの原則

障害を疾病や発達障害としてではなく、個々の特徴として位置づけ、日常生活の上で支障となる面は職員が支援を行った。また、可能な限り個々の障害の特徴や程度で区分するのではなく全体の中で生活ができるように努めた。

2) 個別支援の原則

必要外の集団支援は行わず、個々の特徴やニーズに応じた個別計画を作成し援助を行った。

3) 家族・地域・施設連帯の原則

週帰宅を実施し、家族から遊離することがないように努め、月の第3日曜日（8月は除く）に保護者会をもち保護者と施設の連携を深めた。恒例の納涼祭には、普段からお付き合いのある方中心に声かけし、自然な形で地域住民との交流ができるよう心がけた。

4) 利用者と職員は、指導「する・される」の関係からより良い生活の受益と提供の原則  
 どうすればよりよい生活が提供できるかが法人及び職員全員の目標であり、職員会議等で主たるテーマとしその実践に努めた。

5 利用実績

1) 生活介護（定員52名；{契約者数59名：男33名、女26名}）

平均障害支援区分5.6 開所時間午前9時から午後4時

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
利用実績	1014	1069	986	1057	1053	1048	1101	1051	1143	1124	948	1059	12,653
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
平均利用者数	33.8	34.5	32.9	34.1	34.0	35.0	35.6	35.1	36.9	36.3	33.9	34.2	34.7

2) 施設入所支援（定員52名；{契約者数50名：男27名、女23名}）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
利用実績	1471	1496	1470	1504	1488	1470	1508	1467	1466	1470	1390	1480	17,680
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
平均利用者数	49.0	48.3	49.0	48.5	48.0	49.0	48.6	48.9	47.3	47.4	49.6	47.7	48.4

6 平成28年度重点課題

1) 職員（人材）の安定的確保

- ・学校の施設現場実習、及び行事等への学生ボランティアの積極的受け入れを行った。
- ・福祉、介護就職フェア等の参加や、インターネットを利用して求人にも努めた。

2) 職員の資質の向上

- ・園内研修の充実を図り、震災対策や救命救急技術の向上を図った。
- ・外部研修へ参加し、重度、高齢化に伴う知識、技術の向上を目指した。

3) 南海大地震対策の強化

- ・全体研修以外にも「明け訓練」と題して対応技能の向上のための訓練を実施した。
- ・外部研修へ積極的に参加し、防災の知識と技能の向上を図った。

- ・熊本地震の視察に防災担当職員1名を派遣した。
  - ・震災マニュアルの見直しとともに、震災用品の備蓄場所の整備を行なった。
- 4) 法人内事業所の連携
- ・法人内事業所総合利用体制の強化を図った。

7 運営資金

通常経費は、給付費でまかなった。(収支計算書等参照)

8 平成28年度職員研修

年間計画

4月	・安全運転について	10月	・支援技術の向上 (入浴・排泄等直接支援について)
5月	・心肺蘇生法の習得	11月	・平成28年度法人職員資格試験
6月	・防災についての基礎知識	12月	・虐待研修
7月	・個別支援計画の作成について	1月	・熊本地震視察報告
8月	・支援技術の向上(医務関連)	2月	
9月	・支援技術の向上 (食事・口腔衛生等直接支援について)	3月	・研修報告と実践練習 (口腔ケア関連)

その他

- ・毎月各職員1回程度、心肺蘇生法の習得と防災時の対応訓練を行なった。
- ・年末年始に備え、12月に誤嚥時の対応についての研修を行った。
- ・27年度より継続して埼玉大学の宗澤忠雄先生を講師に招き、本年度は4回(5/16、11/7、1/23、3/15)、主に障害者虐待に係るテーマを題材にした研修会を開催した。高知県内の障害者支援施設の管理者、施設長クラスの職員にも呼びかけ学びの場として提供した。

9 職員構成(職種・氏名)

注) 常勤職員(時短職員含む) △非常勤 (平成29年3月31日現在)

職名 人数	管理者	サビ管 兼施設長	法人事務長	兼総務部長	管理栄養士	相談支援員	支援職員						顧問 医師	合計	調理部門
							支援課 課長	支援課 係長	生活支援員	看護課 課長	看護師	支援職員合計			
男	1		1			2	1	2	15			18	△1	22 △1	業務委託
女		1		1	1		1	2	12		3	18		21	
計	1	1	1	1	1	2	2	4	27		3	33	△1	43 △1	

(平成29年3月31日現在)

職 種	氏 名	
管 理 者	南 守	
サービス管理責任者 (施設長)	井上 朋子	
顧 問 医	橋詰 宏 (精神科)	
事 務 員	門谷 良久 (法人事務長) 南 幸子 (総務部長)	
管理栄養士	森岡 美樹 (総務部係長)	
相談支援員	中森 勇人 (課長) 岡村 和哉 (係長)	
支 援 職 員	看 護 師	上田 友紀 (係長) 山口 由香 小林 香 (計3名)
	男 性 棟	谷本直哉 (課長) 中山貴之 (係長) 楠瀬敬兒郎 (係長) 明神裕志 宮脇淳也 西村卓也 岡林拓也 永野孝洋 尾崎健人 長山佳樹 松山由宇馬 坂本昌彦 川村知也 渡邊賢人 中屋恒弥 春田翔 柿内翼 近森大地 徳弘圭祐 (計18名)
	女 性 棟	中森裕子 (課長) 森澤清恵 (係長) 渡邊寛子 (係長) 矢野由美子 玉川美穂 池添詩織 竹村侑子 西村佐和子 里見優佳 中島陽香里 西田裕美 楠瀬綾 石川かおり 堅田優子 岩本千亜紀 (計15名)

10 生活支援

1) 給 食 (外部委託: モリグリーンフーズ)

食事内容

平均カロリー (/日)	1,768kcal
平均品数 (/日)	朝/6.3品 昼/4.5品 夕/4.6品
食事時間	日課参照

給食費用

実延人数	入所 17,829人	通所 1,717人
材料費	15,094,110円	
業務委託費	19,180,800円	

\*利用者負担は材料費650円、業務委託費930円。超過分はあじさい園が負担しより質の高い食事を提供した。

衛生管理

検 査・点 検	結 果	費 用
検 便	異常なし	10,098円
貯水槽清掃	良好	48,600円
厨房内清掃	良好*害虫駆除 大進	49,680円
浄化槽清掃	良好	430,930円

器具什器費

食器、調理器具	1,536,873円
---------	------------

## 2) 健康管理

利用者の健康状況の把握と疾病の早期発見に努め、感染予防については過去の教訓を生かしながら対策に取り組んだ。又、顧問医、医療機関との連携を常に保った。

園内診察（内科）	月1回	いずみの病院
園内診察（精神科）	不定期	藤戸病院
歯科健診	6/13	広田歯科（園内）
歯科受診	毎週火	広田歯科
口腔ケア	隔月	広田歯科（園内）
内科健診	7/21	横浜ニュータウン内科（園内）
一斉健康診断	10/6	きんろう病院（園内）
検診フォロー	随時	横浜ニュータウン内科
藤戸受診	定期	藤戸病院（園管理者対象）
訪問診療	月2回	あおぞら診療所（契約利用者対象）
インフルエンザ予防接種	11/17	横浜ニュータウン内科（園内）

## 3) 環境整備

園庭の整備、清掃、整理整頓を心がけ環境美化に努めた。

## 4) 防災計画

*総合消防訓練	: 5/18・12/18（高知市南消防署）
担当	園長：総指揮 / 事務員：連絡 / 生活支援員：救助 / その他職員：報告
*南海大地震対策訓練	: 2月26日（全職員）
*南海大地震対策委員会	: 随時、幹部会にて報告

\*熊本の震災を受けて、避難誘導場所を食堂から屋外グラウンドに変更した。2月26日の訓練で、全公用車をグラウンドに移動し利用者の避難誘導を実施。実際に体験することで、様々な課題が明らかになり今後の対策に役立つ結果となった。

又、多くの利用者を収容できるバス（体育館下ピロティ駐車）が地震によって使用できなくなる可能性と、他の公用車をスムーズに移動できる手段を確保する為に、西側の花壇の約3分の2を公用車の駐車場として工事、3月10日に整備を終了した。

### 1.1 日中活動支援

#### \*「いきがい班」

わくわくクラブ、スポーツ、創作、ストレッチの4グループに分かれ活動を行なった。利用者一人一人にあった活動を提供する為に、一つのグループに固定せず多様な活動へ参加できるように配慮した。

#### 1) スポーツ

体を動かす事が好きな利用者中心に、楽しんで運動できるような活動を行なった。主に園周辺や春野運動公園での散歩や、グラウンドでサッカーやボールを使った活動を行った。夏場はすのこにプールを設置し、水遊びを楽しんだ。

#### 2) 創作

主に毎月のカレンダー作り、折り紙、塗り絵等を行なっている。また、行事で使用する製作物の手伝いも行ない、行事に期待感が持てるよう配慮した。クリスマス会には活動で

製作したトナカイのオブジェを玄関に展示している。室内での活動だけではなく、写真撮影等を兼ねて園外で体を動かす機会も設けている。

### 3) ストレッチ

積極的に運動することが難しい方々や高齢の方を中心に、くつろげる空間作りを行い、メリハリのある生活ができるような活動を提供した。

主に、季節ごとに植物や花の寄せ植えを楽しんだり、アロマを焚いてのハンドマッサージ、入浴剤を入れた足湯、無理なく身体を伸ばすストレッチ等をとおして心や身体のリフレッシュに努める共に、心地よい時間となるよう心掛けた。散歩は、種間寺やわんぱく公園など無理のない近距離を中心に歩いた

10月の一日出外では、『グリーンパークほどの』へ行き、バウムクーヘン作りを体験し、屋外でのクッキングを楽しんだ。

### 4) わくわくクラブ

利用者に合った活動が提供できるよう、メンバーを一部変更した。年間を通し、利用者同士で声かけを行って活動場所に集合し、積極的に参加できるようになってきている。

また、日勤帯の職員を配置することで午前中の散歩が充実して行えるようになった。また手芸でつくった作品を第二あじさい園の良心市で販売してもらい、利用者のやりがいや楽しみにつなげることができた。

### 5) その他の活動

毎月のあじさいカフェ、バスドライブ、職員によるお楽しみ企画等を行なった。園芸活動では育てたさつまいもを焼き芋にし、全員で収穫の楽しさを味わった。

## \* 「生産活動班」

生産活動を希望する入所利用者については、第二あじさい園の生活介護を利用してミニトマト、ブルーベリー栽培、木工等の班に所属して日中活動を行った。

(第二あじさい園事業報告参照)

## 1 2 行事・その他の活動について

### 1) 季節行事

行事の内容によっては積極的に保護者や地域住民の方々の参加を促し、利用者と共に季節折々の行事を楽しんだ。

行 事	日	備 考
5月行事 端午の節句	5 / 6 (金)	第二合同
7月行事 七夕	7 / 7 (木)	第二合同
納涼祭	8 /19 (金)	第二・こばと作業所・他関係者 約200名
9月行事 月見	9 /16 (金)	第二合同
スポーツフェスティバル	10/14 (金)	第二・こばと作業所 約120名
クリスマス会	12/22 (木)	第二・こばと作業所・他関係者 約110名
冬期帰宅	12/27 (火)	～H28/1/4 (水)
新年会	1 /13 (金)	第二合同
節分&餅つき	2 / 3 (金)	第二合同
3月行事 ひな祭り	3 / 3 (金)	第二合同

## 2) 誕生会

利用者個々の誕生日を予定表で知らせると共に、食事時間や夜の余暇時間にケーキやプレゼント等を準備して「特別な日」として個々に祝う誕生会を行った。

## 3) 外出

主に各グループ単位で外出を企画し、半日外出や一日外出を実施した。

日	外出先	グループ等
4/15 (金)	土佐和紙工芸村・サニーマート伊野店 (一日外出)	わくわくクラブ
5/20 (金)	四万十オートキャンプ場ウエル花夢 (一日外出)	合同
10/7 (金)	グリーンパークほどの	合同

## 4) 余暇活動

土日祝日は在園されている利用者の日中活動として、余暇活動を行った。特にカラオケに興味を示してくれる方が多く、月に一度は取り入れた。また、余暇企画書の作成を行い、職員一人ひとりの個性や趣味を活かせるような企画や、いかに利用者を楽しませるかを考えるための手段とした。

## 5) 園芸活動

作物の時期や収穫時期を設定し、年間計画表に添って畑を管理し園芸活動を行った。

4月下旬にスイートコーンを植える。収穫したコーンは活動で湯がいて食べ収穫の楽しみを味わった。6月初旬にサツマイモを植える。10月下旬にイモ掘りを行い、11月中旬に焼き芋大会を行いみんなで楽しんだ。また、収穫した大根を食事で提供することもできている。3月にはジャガイモを作付けした。

別館渡り廊下と別館入り口横の花壇に時期に応じて花を植える。(パンジー・ビオラ・ハボタン・ラベンダー等)グラウンドの芝生の整備も適時行い、あじさいの剪定は8月初旬頃に行なった。

## 6) スポーツ活動

5月31日(日)第18回障害者スポーツ大会へ出場する。(陸上:男性1名、フライングディスク:男性5名、女性:7名、ボウリング:男性5名、女性1名、卓球:女性1名)

10月20日(木)、21日(金)第34回 ゆうあいスポーツ四国・よさこい高知こい大会にあじさい園・第二あじさい園・こぼと作業所の合同で利用者21名が参加する。(5月～10月まで表彰部の運営委員として職員1名、当日役員として職員3名を派遣。)

11月11日(金)中部地区施設交流会に参加する。

毎月第二週と第四週の金曜日に障害者スポーツセンター主催の体力作り教室に参加する。ラダーやバスケットボール、簡単な運動で体をほぐし、体力向上に向け取り組む。他事業所の利用者や、指導員や支援員との交流も楽しみながら参加することができた。

## 1.3 あじさい新聞の発行

あじさい園、第二あじさい園、こぼと作業所の行事や活動の様子などを紹介し、利用者、保護者、職員が日々の出来事や情報を共有できるよう、毎月のあじさい会で配布した。(約75部)

## 1.4 その他

今年度は見学者の受け入れを最小限とし、主に全施連の会員、施設が来園した。



平成 28 年度  
あじさい園障害児者相談支援事業所 事業報告書

1 平成 28 年度事業実績

1) 計画相談支援、障害児相談支援  
(サービス利用支援・継続サービス利用支援)

		月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
者	利用支援	12	19	18	10	7	11	10	10	16	12	9	12	146	
	継続支援	0	3	11	3	4	4	5	6	8	6	2	2	54	
	小計	12	22	29	13	11	15	15	16	24	14	11	14	200	
児	利用支援	2	7	6	3	5	10	13	7	6	8	10	12	89	
	継続支援	4	4	2	6	7	5	0	3	5	0	0	0	36	
	小計	6	11	8	9	12	15	13	10	11	8	10	12	125	
計		18	33	27	22	23	30	28	26	35	26	21	26	325	

2) 障害福祉サービスの支給決定に係る調査業務 (高知市委託)

		月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
児・者		14	19	26	14	11	18	19	16	24	20	18	23	222	

高知市支給決定利用者対象 ;  $20,000円 \times 222件 = 4,440,000円$

2 平成 28 年度決算 ※ 収支決算書参照

## 平成28年度第二あじさい園事業報告書

### 1 事業概要

生活介護事業を実施し、法人サービス理念、基本的運営理念、運営方針を基盤とした事業計画及び、利用者個々の特性やニーズに応じた個別支援計画を作成し、計画的且つ一貫した支援ができるように努めた。又、新商品の開発や販路拡大にも取り組んだ。

営業日は原則月曜日から金曜日。営業時間は9:30～16:00(送迎時間を除く)として運営した。

### 2 法人サービス理念

1) 「できるだけ普通に、可能な限り特別に」をサービスの基本とします。

施設を地域の一単位と考え、一般社会と比較されるような特別な生活環境ではない、いわゆる「普通」感覚をもちながら、個別のニーズには可能な限り「特別」で手厚いサービス提供をすることを目指した。

2) 利用者に心地よい介助技術の習得に努め、心は常にアマチュアであろうとします。

職員は介護等の自主研修等とおして介助、支援技術の習得に努めた。又、専門性を高めることによって、アマチュアであった時のような本来の福祉の精神が失われることのないよう職員教育を行った。

### 3 基本的運営理念

1) 家庭の代替機能、補完機能を第一義としない。

保護者と施設がそれぞれの役割を果たせるような関係づくりをし、利用者が家庭から遊離しないような取り組みを継続して行なった。

2) 幅広い福祉システム作りの核としての機能と目的を持つ。

法人の実施するサービスの有効活用を目指し、短期入所、相談支援事業と連携し、施設利用者支援に努めた。

3) 話し合える関係を保持する保護者たちが、施設と両輪となり「親の視点」で運営する。

利用者が何を望んでいるのかを把握するために、「親の視点」をおして保護者と施設が連携を保ちながらの利用者サービスに努めた。

### 4 運営方針

1) ノーマライゼーションの原則

障害を疾病や発達障害としてではなく、個々の特徴として位置づけ、日常生活のうえで必要となる面は職員が支援を行なった。また、可能な限り個々の障害の質や程度で区分する事も行なわず全体の中で生活ができるように努めた。

2) 個別支援の原則

必要以外の集団サービスは行なわず、個々の特徴やニーズに応じた個別計画を作成し支援にあたった。

3) 家族・地域・施設連帯の原則

第3日曜日(8月は除く)に保護者会をもち保護者と施設の連携を深めた。また、夕涼み会・クリスマス会・生産物の販売などを通じての地域交流を図った。

4) 利用者と職員は、指導「する・される」の関係から、作業環境を含んだより良い生活

の受益と提供の原則

利用者はより良い環境を受益する権利があり、職員はより良い環境を提供する義務を持つという認識に立って活動を行うことができた。

## 5 平成28年度重点課題

### 1) 豊かな生活の創造

- ・高齢になり体力が低下してきても作業に参加していきたいというニーズをかなえられるよう、作業設備の改善を行うと共に安全な作業環境の提供に努めた。
- ・余暇的活動内容の充実に努めた。

### 2) 職員（人材）の安定的確保

- ・福祉、介護就職フェア等に参加やインターネットを利用して求人にも努めた。
- ・学校の施設現場実習、及び行事等への学生ボランティアの積極的受け入れを行った。

### 3) 職員の資質向上とリスクマネジメント

- ・園内研修内容の充実に努め、震災対策や救急救命（応急処置）技術の向上を図った。
- ・宗澤先生をお招きし、虐待に関連する連続講座を行った。

### 4) 南海大地震対策の強化

- ・全体研修以外にも「明け訓練」と題して対応技能の向上の為に訓練を実施した。
- ・外部研修にも積極的に参加し、防災知識と技能の向上を図った。熊本地震視察に職員を派遣した。
- ・震災マニュアルの見直しとともに、震災用用品の備蓄場所の整備を行った。

### 5) 法人内事業所の連携強化

- ・法人内事業所総合利用体制の強化を行った。

### 6) 情報開示と広報

- ・ホームページ、ブログ、ツイッター等の内容の充実とデータ更新を行った。

## 6 平成28年度職員研修

4月	・安全運転について	10月	・支援技術の向上（入浴・排泄等の直接的支援について）
5月	・心肺蘇生法の習得	11月	・法人職員資格試験
6月	・防災に関する基礎知識	12月	・虐待研修
7月	・個別支援計画の作成について	1月	・熊本地震視察報告
8月	・支援技術の向上（医務）	2月	
9月	・支援技術の向上（食事・口腔衛生等の直接的支援について）	3月	・研修報告と実践練習（口腔ケア関連）

- ・毎月脱施設委員会とサービス内容検討委員会を開催し、あじさい園、第二あじさい園における利用者支援内容の向上に努めた。
- ・毎月各自1回心肺蘇生法の習得と防災時の対応訓練を行った。
- ・与薬業務とてんかん発作についてのグループ研修を行った。
- ・埼玉大学の宗澤忠雄先生を講師に、年間4回（5/16, 11/7, 1/23, 3/15）あじさい園で主に障害者虐待をテーマに研修会を開催した。

## 7 具体的運営

### 1) 生活支援

利用者個々の生活様式に応じた生活援助を目的とし、どうすれば最も快適な生活ができるかを常に模索し、利用者の自己実現を図れるよう支援した。

#### (1) 給食

##### 食事内容

平均カロリー	677Cal
平均品数	4.6品
食事時間	日課参照

##### 給食費用

実延人数	5,372人	
材料費	1,779,302円	(331円/1食あたり)
業務委託費	2,073,600円	

##### 衛生管理費

検査・点検	結果	費用
検便	異常なし	
浄化槽掃除	浄化槽掃除	

##### 器具什器費

食器	6,048円
----	--------

### 2) 健康管理

利用者の健康状況の把握と疾病の早期発見に努め、感染予防については過去の教訓を生かしながら対策に取り組んだ。又、嘱託医、医療機関との連携を常に保った。

園内検診(内科)	月一回	嘱託(いずみの病院)
園内検診(精神科)	不定期	藤戸病院
歯科検診	6/13	広田歯科(園内)
歯科受診	毎週火	広田歯科
口腔ケア	隔月	広田歯科(園内)
内科検診	7/21	横浜ニュータウン内科(園内)
一斉健康診断	10/6	きんろう病院(園内)
検診フォロー	随時	横浜ニュータウン内科
藤戸病院受診	定期	藤戸病院
インフルエンザ予防接種	11/17	横浜ニュータウン内科(園内)

### 3) 環境整備

施設内の美化と利用者周辺の整理整頓に努めた。

### 4) 防災計画

*総合消防訓練：5/18・12/18(高知市春野分署)	
担当	園長：総指揮 / 事務員：連絡 / 支援員：救助 / その他職員：報告
*南海地震対策訓練：2/26(全職員)電気、水道を止めての避難訓練を行った。	
*南海地震対策委員会：毎月幹部会にて報告	

8 日課

時 間	活 動 内 容
8 : 3 0	迎えバス発
8 : 3 0	始 業
9 : 4 5	作業開始
1 0 : 5 0	休憩
1 1 : 0 0	作業再開
1 1 : 4 5	利用者昼食開始
1 3 : 0 0	作業グループ午後作業開始・当番利用者食堂掃除
1 4 : 1 5	休憩
1 4 : 3 0	作業再開
1 5 : 3 0	作業終了
1 6 : 0 0	送りバス発
1 7 : 1 5	終 業

9 職員構成

1) 職員構成

(平成29年3月31日現在)

職 名	管 理 者	施 設 長 兼 サ ビ 管	事 務 員 ・ こ ぼ と 作 業 所 兼 務	管 理 栄 養 士 ・ あ じ さ い 園 兼 務	直 接 処 遇 職 員					嘱 託 医 師	合 計	調 理 部 門
					支 援 課 長	支 援 係 長	生 活 支 援 員	看 護 師 ・ あ じ さ い 園 兼 務	支 援 員 合 計			
男	1	1			1	1	2		4	△1	6 △1	業 委 託
女			1	1			1	1	2		4	
計	1	1	1	1	1	1	3	1	6	△1	10 △1	

(注) △は嘱託（年度途中で嘱託医の配置を中止した）

2) 職員名及び担当

(平成28年度)

職 種		氏 名	
管 理 者		南 守	
サービス管理責任者 (施 設 長)		岩城 雅人	
嘱 託 医		五島 正則 (内科)	
事 務 員		井田 陽子 (あじさい園兼務)	
管理栄養士		森岡 美樹 (あじさい園兼務)	
支 援 員	看 護 師	上田 友紀 (あじさい園兼務)	
	男 性	(課長) 矢野 雅章 (係長) 時田 祐司	
	女 性	猪原 佑介      西岡 勝彦 仁井田 千恵      井上 由利	

10 運営資金

運営経費は、給付費でまかなった。

(収支計算書等を参照)

11 利用者の推移 (基準数: 開所日数269・利用人数5,380)

項 目	計		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	延数	%	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
利用契約者数	272	113	24	24	24	24	24	22	22	22	22	22	21	21
利用実績者数	5002	93	439	436	506	455	473	412	401	391	342	377	388	382
開所日数	234	90	20	20	22	20	22	20	20	20	18	19	20	22

平均年齢: 男性-47.9歳 (12名) 女性-39.9歳 (9名) 総計平均44.5歳 (21名)

平均支援度区分-4.9 基準人員配置人数-4.1人

12 会議

職員会・ケース会・個別支援会議・サービス担当者会議・作業内容検討会を適時実施した。

13 活動・行事について

社会自立に目標をおく作業とともに、個々人に適した自立や生き甲斐に主眼を置いた活動も提供した。行事、余暇活動については、スポーツ大会参加や直販への参加活動なども取入

れた。

## I 作業別

### 1) トマト作業

担当：時 田

男性利用者7名、女性利用者5名(職員3~4名)が中心となってトマト作業を展開した。

[作業経過]

○トマトハウス(864苗)9列植え 1列80~96苗植え (6穴植え)

定植：平成28年8月8日(ルネッサンス、トマトベリー)

液肥：最初は、0.6~0.8 成長が進んでからはEC1.3~2.3を目安で設定。

消毒回数(平成28年9月~平成29年3月31日現在)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0回	0回	0回	0回	4回	5回	3回	3回	2回	1回	1回	1回

#### 使用農薬

- ・殺虫剤：スタークル(1)、コルト(1)、ダイナイト(1) ウララ(1) チェス(1)
- ・殺菌剤：ベルクードフロアブル(1) トリフミン(2) ゼイビアーフロアブル(1)  
ホライズンフロアブル(1) ゲッター水和剤(2) ボトキラー(5)
- ・殺虫殺菌剤：サンクリスタル乳剤(4) ・特殊肥料：メリット青(3)

重油回数：4回 夜温設定(11℃)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	1回	2回	1回	1回

○どんこハウス(1092苗)18列植え (6穴植え)

定植：平成28年4月1日(ベにすすめ)9列植え(6穴植え)

定植：平成28年8月12日(ネネ)18列植え(6穴植え)

液肥：最初は、0.6~0.8 成長が進んでからはEC1.2~1.3を目安で設定。

消毒回数(平成28年6月~平成29年3月31日現在)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1回	4回	5回	4回	3回	5回	4回	4回	2回	1回	1回	1回

#### 使用農薬

- ・殺虫剤：ダイナイト(1)、ウララ(2)、スタークル(2)、チェス(1)、コルト(2)  
ベストガード(1)、マッチ乳剤(1)、アフーム乳剤(1)
- ・殺菌剤：トリフミン(2)、ベルクード水和剤(1)、ベルクードフロアブル(1)  
セイビアーフロアブル20(1)、ゲッター水和剤(2) ペンコゼム乳剤(1)  
ボトキラー(11) ・殺虫殺菌剤：サンクリスタル乳剤(4)
- ・特殊肥料：メリット青(12) メリット赤(2) メリット黄(1)

重油回数：4回、夜温設定(11℃)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	1回	2回	1回	回1

○トマトハウス総収穫量（平成28年3月31日現在）

11月	12月	1月	2月	3月	合計
78.8k	312.2k	404.3k	386.6k	536.5k	1718.4

○トマトハウス割れ、傷

11月	12月	1月	2月	3月	合計
4.3k	169.5k	52.7k	135.5k	199.4k	561.4

○どんこハウス総収穫量（平成29年3月31日現在）

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
150.1k	431.7k	366.9k	163.4k	121.5k	199.2k	344.1k	338.6k	381.9k	264k	3144.9k

○どんこハウス割れ、傷

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
5.5k	78.5k	36.4k	9.6k	52.1k	95.6k	106.6k	67.8k	74.4k	18.3k	620.6k

○28年度収穫量（3月31日現在）

トマトハウス：1718.4kg（内売り物1157.0kg）

どんこハウス：3144.9kg（内売り物：2524.3kg）

**ネネ合計：2036.2kg（内売り物1568.7kg）**

**べにすずめ：1108.7kg**

**ルネッサンス：1356.5kg**

**トマトベリー：361.9kg**

**四種類合計：4863.3kg**

過去の同時期の収穫量（参考資料）

22年度収穫量 2857.9kg（平成22年8月～平成23年3月）

23年度収穫量 2648.8kg（平成23年9月～平成24年3月）

24年度収穫量 2252.2kg（平成24年8月～平成25年3月）

25年度収穫量 3946.8kg（平成25年8月～平成26年3月）

26年度収穫量 3655.2kg（平成26年8月～平成27年3月）

27年度収穫量 5382.35kg（平成27年8月～平成28年3月）

○まとめ

今年度も夏場の栽培をおこなった。昨年度は、ネネを栽培したが割れている物が多くあったことを反省し、ネネより割れにくいベニスズメをどんこハウスで栽培した。栽培はどんこハウスの北半分（864本）に作付けし、半数を挿し木で対処した。

後半（9月からの栽培）の栽培については、トマトハウスとどんこハウスの両方を使用し、ネネ、トマトベリー、ルネッサンスの三種類の栽培を行った。ルネッサンスは苗で購入し栽培を行ったが、ネネ、トマトベリーは種から栽培を行った。種からの栽培では、ハウス内の気温が高温であったことで、発芽率が半分以下となり、種を再購入した。しかし、それでも本数が不



足したため、挿し木を行う事で足りない本数を補った。

発育状態については、前半のべにすずめでは、6月の梅雨から灰色すすカビ病が発生しハウス内全体に広がってしまった。そのため、葉切りや消毒で対応したが改善する様子は見られなかった。実の状態についても、高温が影響したのか、一部ヘタが枯れてしまうこともあり、ヘタを除けて良心市で販売した。

後半も灰色すすカビ病が発生したが、農薬と葉切りで対応し苗の状況が改善された。その後のカビ予防として、農薬をこまめに散布し、定期的に肥料を葉面散布して苗を丈夫にする対応をした。（葉面散布は散布は利用者さんの新しい工程とした。）カビの発生は見られましたが、病気が広がることなく順調に成長することができた。また、トマトハウスでも、同様の対応をとることで病気がほぼ発生することなく順調に発育した。しかし、2月の後半から疫病の発生がみられ、その都度苗を処分して対応した。

設備面においては、大きな修繕はなかったが、内張りの隙間をビニールで補強したり、全体にボイラーの熱が届くようにダクトを西側にも伸ばす等の対応をした。また、ハウス内に光が十分届く様に、屋根の掃除を両方のハウスで実施した。

収穫については、夏場にべにすずめを栽培したことで、昨年よりは割れが少なく収穫出来た。後半では、栽培品種を3品目にしたことで購入層が増え、量販店や保護者売りで対応できた。また、海トマトが好評であったが収量が少なく全てのお客様には対応できなかった。

来年度は、トマトハウスの張替があるため、それに沿った年間のスケジュールを立てて対応する。

## 2) 木工作业

担当：猪原

男性利用者8名、女性利用者4名(職員1名)が中心となって木工作业を展開した。

### ○木工作业状況

今年度も商品の大量受注や急な注文も無かったので、現在ある在庫で対応した。

福祉ショップポピーや福祉交流プラザのふれあいショップからの定期的な注文や、ナイスハートバザール、障害者作品展の開催の際も在庫での対応が出来素早い対応が出来た。

新商品の開発などもおこなったが、販売までには至らなかった。

木工製品の売り上げは前年度に比べ少し減少していますが、ほぼ変わらない状況だった。

今年度の障害者作品展において、「色なしの商品が欲しい。」との要望があったとのことで来年度からは色なしの商品も多めに出していきたいと考えている。

現在の販売先(外部・委託販売を含む。)は「てんこす」「ナイスハートバザール」「福祉ショップポピー」「カタログ・あじさい園ホームページ」「ふれあいショップ(福祉交流プラザ)」「障害者作品展」「良心市」で、今年度より「こぼと作業所良心市」が新たに加わった。

今年度も、ほぼ職員が1名体制であったこともあり、利用者さん一人一人に対して行き渡った個別支援がおこなえていないことが問題点としてあげらる。利用者さんの作業を作る為に、職員が作業場を離れて動くこともあり、関わりをもつこともなかなか出来ていない現実があった。

夏場は昨年と同様に午前のみではありますが、ブルーベリー作業に参加した。暑い中ではあったが協力して作業に取り組めた。来年度も協力していく予定。

資材の処分については、2名職員が入れる際に捨てるなどしており、前年度ほどゴミ箱がいっぱいになるような状況はなかった。

(危機管理)

木工機械の電源管理、ペティークの刃の確認など前年度同様のチェックを行った。今年度は時々危険な状態があった為、各職員危険な工具を使用しているとの認識を持って、見回り等をうよう再確認した。木工機械の注意点、使用方法などの確認も行った。

(展開)

新年度からは木工作业だけでなく、ビーズを使った作業にも力を入れていき、鑢かけだけでなく楽しみながら作業参加が出来る環境づくりを行っていくよう予定している。

### 3) 食品加工

#### 【ジャム/ドライトマト種類別製造数】

ブルーベリージャム	667個
イチゴジャム	618個 (内、生ジャム166個)
シロップ漬け	16個
ドライトマト	7.84Kg
ジャム総数 - 1,301個	

(状況)

本年度は、ジャム、ドライトマト・ブルーベリーシロップ漬けの製造を担当職員3名と利用者1名で作業に取り組んだ。

担当利用者は1名で、長年行っている成果もあり、準備、製造、片づけに至る一連の流れに関してはすべて把握しており、また自主的に動いている。作業に参加できる利用者増を目指して、本年度終盤から男性利用者を1名担当として関わっていただけるよう取り組みを始めた。

今年度製造したジャムの種類は、ブルーベリー・イチゴのみで、その他のジャム(トマト、ミックスベリー等)に関しては製造していない。ジャムの制作は月に2回を基本とし、各店舗の在庫状況や急な大量注文の際は調整して行った。シロップ漬けに関しては、ブルーベリーが足りなくなることを懸念し、製造を控えたことで1回のみとなった。状況としてはブルーベリーの在庫もあるため、収穫が始まる時期までにと数回は製造していく予定。

ドライトマト作りは、延べ4回行った。売れ行きがあまり良いとは言えず、生産数を控えている状況である。

ドライトマト作業に関わった利用者の方は昨年度同様、常時6名程度の方が作業に取り組んだ。加工作業を行うにあたり、白衣、帽子、マスク、手袋着用を促し、手洗いと消毒の徹底も含め衛生面に注意を払うと共に、包丁を使用するため、安全面への配慮も徹底した。今後も継続して取り組んでいく予定である。

(衛生管理)

ジャムの製造において、担当する方については年に4回の検便を実施し、大腸菌検査を行った。他に冷蔵庫の室内清掃を定期的(5・11月)に行うことや、ゴキブリ駆除剤の設置を2・8月に行うと共に、定期的に清掃業者にも入ってもらった。また、パイプクリーナーを使用し週1の清掃とともに、今年度より毎朝3分間水を流すことで排水溝の衛生保持に努めた。また、保管を段ボール箱の使用からプラスチック箱への変更を行うことで、害虫の繁殖防止に努めた。怪我や火災等が出ないよう安全対策を強化し食品加工作業に取り組んだ。

(展開)

来年度は、冷凍庫に入っている各種類の作物と瓶や蓋、シーラーに関する在庫管理をしっかりと行い、データ管理ができるようにしていきたいと考えている。

#### 4) ブルーベリー栽培

利用者職員とも他作業との兼務で栽培を展開した。

通常の栽培にはあまり手のかからない作物である為、必要時に1～2名の参加で栽培管理を行った。収穫に関しては人手を多く要するため、木工班にも参加してもらい、午前中に集中して収穫を行った。収穫期間は6/29～8/31の盛夏時であった為、熱中症対策など参加利用者の健康管理には気を配り、熱中症警報が出された日は高齢の方を中心に一部メンバーを本館の活動に参加してもらおう対応を取った。

収穫したブルーベリーはトマト同様、保護者、量販店にて販売を行った。また、ブルーベリージャムの源材料としても活用した。総収穫量は前年とほぼ同量となった。

本年度の収穫量—ティフブルー (126.15) ・バルドウィン (177.19) ・ノビリス (7.79)  
その他 (12.05) 総収穫量 (323.18Kg)

#### 5) 販売活動

○まとめ

今年度も各生産担当者と連携し、お客様や取引先との調整、販売に必要な情報収集などを行い第二あじさい園の商品の販促及び苦情処理を行った。

サンーマート六泉寺、瀬戸両店 (JA高知春野管理店) は、他の店舗 (細井商事) に比べると、トマト販売・加工品販売共に好調だったが、昨年度に比売上高は減少した。状況把握をしっかりと行い、売れ行きの向上を図っていきます。

トマトに関しては固定客もでき、当園のトマトを待ちわびている方がいるという連絡もあった。今後も優先して商品の出荷を行い、欠品しないように確認していきます。

サンーマート細井商事管理店は、土佐道路東店、高岡店、あぞうの店、中万々店、南国アクシス店に出荷を行った。現状での青果販売は土佐道路店のみで、他店舗は加工品の販売を行った。全体に売れ行きが減少傾向であったため、上記同様に状況把握をしっかりと行い、売れ行きの向上を図っていきます。

サンシャインへの出荷は、以前より継続してヴィアン店のみトマトとブルーベリーの出荷を行った。売れ行きは好調であったが、生産量の関係で出荷量を増やすことはできなかった。来年度も継続して出荷できるよう調整していきます。

サンプラザ天王店へは11月から5月の間ミニトマトを出荷した。出荷に関して、火曜日と金曜日の週に2回を基本としているが、突発的な注文にも対応した。今後も長く取引が行えるよう連絡を取り合っていきます。

セレクトショップてんこすとは、引き続き定期的な取引が続いており、特にドライトマトを中心に木工商品も徐々に売行きがのびてきている。県内外のお客様が利用される店舗であり、販売としても宣伝としてもよい販路であり、来年度も優先して注文に応じて行くようにします。

よどやと加工品 (ジャム) の取引では継続して定期注文が入っている。卸値は定価の七割五分で取引しており、注文数も多く、また納品に関しては先方が当園まで取りに来てくれて、条件としては非常によい取引先となっている。加工品の売り上げにも大きく貢献しており、今後も注文が入った際は優先的且つ迅速に対応していきます。

ホームページでの販売に関しては、ヤマトフィナンシャル（クレジット・代引き）の注文も不定期ではあるがあった。やり方に関して、担当職員以外も扱えるように教えている。今後も多くの注文が入るとは考えにくい、当園の重要な広告として状況を見守って行きつつ、注文が入った際は迅速な対応を心がけていきます。

良心市の販売については順調に売り上げており、昨年同様に割れトマトの格安販売が人気であった。現在ネネットマトを袋売り（200g）とパック売り（500g）で販売していますが、思った以上にパック売り（500g）の売れ行きが好調だった。また、2号店での土日の販売も売上げが上がった。更に今年度は1月に小鳩作業所の敷地内に3号店を設置し販売を開始した。現状ではまだ販売額は多くはないが、割れトマトの格安販売が良い状況で、徐々に地域住民の方々に浸透し始めている。

木工品販売は厳しい状況が続いている。

加工品に関しては、なるべく出して行くよう心がけていますが、サニーマート・よどやの売れ行きが好調なため多く出せていない状況である。

開店と閉店に関しては、職員の見守りは必要ではあるが、現在利用者3名が担当し、それぞれの役割をこなしながら大きな問題もなく行えている。

食品関係の法律が改正されることもあり必要な情報の収集、商品仕様書や配合仕様書の提出などをしっかりと行い、販売が滞らないようにして、来年度も各担当者と協力し販促活動を取り組んでいきます。

## II 作業収入（収支計算書等を参照）

トマト/BB	木工	食品加工	その他	総計
3,397,195円	323,625円	122,923円	88,560円	3,932,303円

## V 作業工賃（作業に従事するもの）

- 1) 時給計算での支給を基本とした。新しく作業に参加した方に対しては一定期間固定給で支給した。基本的に工賃支払は銀行振り込みとした。

支給工賃総額	1,609,833円
--------	------------

## III 余暇活動・季節行事

木曜日の午後に余暇活動を設定し、利用者の気分転換を図った。

外出、買い物に関しては感染対策の為、制限を設ける事があった。。

\*文化活動（刺繍、陶芸、習字、カメラを自由に選択）

\*スポーツ（バスケットボール、散歩等）

\*買い物

\*外出

活動種目は選択制とし、選択種目の中に作業活動も含めた。

1日外出が実施できるよう、救命救急等の支援技能の向上に努めた。

季節行事はあじさい園と合同で実施した。

作業終了後希望者を対象に運動支援を行った。

### 1) 季節行事

行事の内容によっては積極的に保護者や地域住民の方々の参加を促し、利用者と共に

季節折々の行事を楽しんだ。

行 事	日	備 考
5月行事 端午の節句	5/ 6 (金)	本館、第二合同
高知県障害者スポーツ大会	5/29 (日)	出場希望者
7月行事 七夕	7/ 7 (木)	本館・第二合同
納涼祭	8/19 (金)	本館・第二・小鳩会・他 約200名
9月行事 月見	9/16 (金)	本館、第二合同
スポーツフェスティバル	10/14 (金)	本館・第二・こばと作業所他 約120名
第二あじさい園忘年会	12/16 (金)	忘年会クッキング～カラオケ
クリスマス会	12/22 (木)	本館・第二・こばと作業所 他 約110名
冬期帰宅	12/28 (木)	～H29.1/3 (火)
新年会	1/13 (金)	本館・第二合同
節分・もちつき	2/ 3 (金)	本館・第二・こばと作業所合同
3月行事 ひな祭り	3/ 3 (金)	本館・第二合同

2) 一日外出

4月13日－ ‘オーベルジュ土佐山, でバーベキュー (高知市)

11月18日－土佐和紙工芸村 (いの町)

14 送迎

細木病院コース、高知駅前コース、天王ニュータウンコースの3コースを運行した。

15 管理責任

入園時間から退園時間までを、当園の利用者に対する管理責任の時間帯とした。

いったん退園後、再来園する利用者に対しては保護者の了解を得て来る事と、17:00には退園する事を取り決めた。

## 平成28年度 生活介護事業所こぼと作業所事業報告

### 1 設置場所

高知市曙町1丁目4-34

### 2 営業日及び営業時間等

営業日 原則 月曜日から金曜日まで  
 営業時間 9:30～16:00(送迎時間を除く)

### 3 職員構成

管理者－南 守 (兼務)  
 作業所所長－岩城 雅人 (兼務)  
 サービス管理責任者－入交 沙織  
 事務員－井田 陽子 (兼務)  
 看護師－上田 友紀 (兼務)  
 生活支援員－矢野 泰彦 (12月末まで)、小松 憲夫 (1月より)、山村 廣美

### 4 施設利用状況の推移(定員20名,契約者数7～9名:基準開所日数270日,利用人数5,400名)

項目	計		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	延数	%	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
利用契約者数	96	40	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
利用実績者数	1864	35	151	149	174	159	169	148	153	157	138	136	157	173
開所日数	243	90	20	20	22	20	22	20	20	20	18	19	20	22

平均年齢：男性－45.3歳(3名) 女性－36.0歳(5名) 総計平均40.6歳(8名)

平均支援度区分－4.9 基準人員配置人数－1.54人

### 5 職員研修

- ・宗澤先生虐待研修：5/16.1/23.3/15：あじさい園 参加者：入交沙織
- ・支援スタッフ部会：10/18：昭光園 参加者：入交沙織
- ・H28年度高知県知的障害者福祉協会施設長・幹部職員研修会  
8/25.26：オリエントホテル 参加者：入交沙織
- ・H28年度高知県知的障害者福祉協会防災委員会：9/16：昭光園 参加者：入交沙織
- ・高知市保健所施設内感染対策研修会：10/5：総合安心センター 参加者：入交沙織
- ・高知県水害土砂災害への備えに関する要配慮者利用施設の管理者向け説明会  
1/27：県民文化ホール 参加者：入交沙織

### 6 平成28年度重点課題

#### ①利用者のニーズに沿った活動の提供

- ・利用者の個々のニーズが多様化し、ティッシュ作業以外の活動内容を検討し、運動

支援や余暇活動を計画し提供した。

②職員（人材）の安定的確保

- ・福祉、介護就職フェア等への参加や、インターネットを利用して求人に努めた。

③職員の資質向上とリスクマネジメント

- ・勤務上の調整がつく限り外部研修に積極的に参加した。
- ・園内研修により震災対策や救命救急（応急処置）、介助技術の習得に努めた。
- ・宗澤先生をお招きした、虐待に関連する連続講座に参加した。

④南海大地震対策の強化

- ・全体研修以外にも、毎月の職員会にて準備品・避難場所・訓練等の状況を確認し合った。
- ・MCA無線を設置し、毎朝あじさい園との間で通信訓練を実施した。

⑤法人内事業所との連携強化

- ・法人内事業所と連携して職員派遣をおこない、連携強化に努めた。

⑥地域との連携

- ・良心市を設置し、販売を通して地域の方との交流を図った。

7 健康管理

内 容	日 数	病 院 名
定 期 健 康 チェック	月 2 回	こばと作業所上田看護師
一 斉 歯 科 検 診	6/13	広田歯科
内 科 検 診	7/21	横浜ニュータウン内科
一 斉 健 康 診 断	10/6	きんろう病院
インフルエンザ予防接種	11/17	横浜ニュータウン内科

8 給食

食事内容－平均カロリー717Cal 平均品数5品

給食費用－材料費 1食あたり200円

9 日課（1日の流れ）

時 間	活 動 内 容
8：30	始業
8：40	送迎車出発
9：30	体操、ミーティング
10：00	午前日中活動（適宜休憩）
11：00	掃除
11：30	昼食開始、休憩
13：00	午後日中活動（適宜休憩）
15：20	日中活動終了
15：30	体操、ミーティング

16:00	送迎車出発
17:30	終業

10 運営資金

給付費（生活介護）にて全てを賄う。

（収支報告書等を参照）

11 作業収入・作業工賃（収支報告書等を参照）

作業収入－191,848 円

作業工賃－201,605 円

12 会議

職員会・ケース会・個別支援会議・サービス担当者会議・作業内容検討会を適宜実施した。

また森グリーンフーズとも食事提供の確認等話し合いをもった。

心肺蘇生法及び誤嚥時の対応訓練については、心肺蘇生法訓練用人形をレンタルし、訓練回数を増やし、全職員が迅速に救命処置を行えるよう繰り返した。

13 日中活動・余暇活動

（ティッシュ作業）

ティッシュの袋詰、袋止め、箱詰め作業を実施。一定の作業量を確保しつつ、作業量を減らし、利用者の特性に合わせてゆっくりと作業をすすめた。

（運動支援）

運動不足にならないよう、毎日1時間程度の散歩を実施。第二、第四金曜日に体力作り教室に参加、夏は水遊びを週一回実施、秋は他施設との交流会に参加した。

（余暇活動）

週一回程度のペースで余暇の時間を設け、利用者のリフレッシュに努めてきた。

月1～2回の買い物や、外出散歩、クッキング、お茶会、新年会等を実施した。

半日外出：8月よさこい見学、10月コスモス祭り、12月みかん狩り

一日外出：3月牧野植物園

14 季節行事

行 事	日	備 考
高知県障害者スポーツ大会	5/29	ボウリング
納涼祭	8/19	あじさい・第二・こぼと・小鳩会他
スポーツフェスティバル	10/14	あじさい・第二・こぼと
クリスマス会	12/22	あじさい・第二・こぼと・関係者他
冬期休業	12/28～1/3	

※あじさい園、第二あじさい園主催行事(納涼祭/スポーツフェスティバル/クリスマス会)



15 実習生

高知県立高知若草養護学校（1名）：6月、10月

15 送迎

百石町コース（2台で運行）を運行した。

17 管理責任

入園時間から退園時間までを当園の利用者に対する管理責任の時間帯とした。